



古川 愛明 (創政会)

古川議員の動画はこちら



質問項目

- ・建設行政について
- ・市民生活行政について
- ・危機管理行政について

災害時における避難対応について

スファイア基準、TKB48で万全に

議員 当市におけるトイレの準備は避難者30人に対して1個用意はできているか。

強化に努めていく。

議員 TKB48の考え方は、どの程度の充足と考えているのか。

市長 主に学校施設の体育館を拠点避難所として指定しているが、トイレの数においてスファイア基準を満たしていない避難所もある。校舎等の施設を活用するなどに対応し、避難者の安心の確保に努めている。避難所におけるトイレ環境の整備は、避難者の健康と生活の質を守るために不可欠である認識していることから、引き続きスファイア基準を踏まえた運用体制の

防災危機管理課長 市の備蓄状況は、避難者数を津波災害時における避難対象者1万2000人のうち3分の1の4000人が避難したと想定して、トイレについては、簡易トイレ270台は換算すると約15人に1台、トイレ凝固剤が2万7000回分で1人当たり6回分となっている。就寝環境については、段ボールベッド180台で、1

議員 避難所10台、パーテーション300台で1避難所15台、毛布が4000枚で1人1枚となっている。また、災害が長期に及ぶ見込みとなった場合、国や県の備蓄倉庫から順次送られてくるほか、災害協定を結んでいる先からも調達されることになっている。

議員 12月12日に発生した津波注意報時の教育委員会への対応を伺う。

教育部長 当市においては学校の授業は通常どおり継続し、下校時刻までに注意報が解除されれば通常下校を行い、注意報が解除

TKB48：災害発生から48時間以内に避難所でT（トイレ）、K（キッチン・食事）、B（ベッド）を整備するという、避難所の質向上を目指す目標・コンセプトで、災害関連死を防ぐための指標。

されていなければ、保護者等への引き渡し下校を実施している。これまでの対応方針では通常授業を実施した後通常下校する流れであったが、12月12日の児童生徒の様子を見ると、落ち着きのなさや不安を訴える子どもが散見されたことから、予定していた下校を繰り上げ、保護者への引き渡しという方法で下校させることにした。

議員 防災危機管理課への女性職員の登用について。

総務課長 災害時において女性目線での対応も必要と考える。女性職員の配置を視野に入れていきたいと考えている。



常楽寺避難場所の備蓄倉庫